

# ともだちのわ

T O M O D A C H I N O W A



都賀の台幼稚園



穴川花園幼稚園



信徳寺あさひ幼稚園



認定こども園 真砂幼稚園

## Contents

- P02 巻頭言 熊谷 俊人(千葉県知事)
- P03 就学に向けて～幼児教育の大切さ～
- P04 令和3年度 園表彰・永年勤続者表彰式
- P06 千葉市幼稚園協会研修会
- P08 理事長・園長研修会報告
- P09 コロナ禍アンケート、2022幼稚園・こども園フェア
- P10 お弁当・給食だいすき
- P11 保育室の窓から
- P12 協会からお知らせ、編集後記



千葉県知事  
熊谷 俊人

公益社団法人千葉市幼稚園協会の皆様には、日ごろから、本県の幼児教育の振興に、多大なる御尽力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症への対応が求められる状況が続くなか、幼児教育の現場の皆様には、感染防止対策を講じながら、子どもたちの学びの機会の確保に取り組んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

本県では、約9割の幼稚園児が私立幼稚園に在園しており、私立幼稚園の皆様には長年、本県の幼児教育において、大変大きな役割を担っていただいていると認識しております。

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、私立幼稚園の特色ある教育方針や理念に基づく、豊かな学びや経験は、子どもたちの将来に多くの影響を与えるものであると考えています。

近年、少子化や核家族化、都市化の進展などにより、家庭や地域の教育力の低下が指摘されるなか、私立幼稚園の地域における役割に対して、大きな期待が寄せられております。

本県では、皆様の御協力により、多くの私立幼稚

園において、幼児教育とあわせて、預かり保育や子育て相談、園庭開放などを行うことにより、地域の子育て支援における重要な役割を担っていただいているところであり、大変心強く思っております。

県としましても、令和4年度当初予算案において、経常費補助金の単価に県が上乘せしている補助額を、今年度よりさらに増額することとしているほか、特別支援教育に係る補助金について、特別な配慮が必要な幼児の在籍要件を、10月1日現在まで拡充するなど、さまざまな面から私立幼稚園に対する支援に取り組んでいるところです。

また、今般、国の経済対策において、幼児教育の現場で働く方々の収入を上げるための措置を実施するとされ、令和4年2月以降、幼稚園教諭等の処遇改善を実施した幼稚園に対して、新たに国による補助が行われることとなりました。このうち、私学助成園に対する補助については、都道府県が国からの委任を受けて事務を行うこととされたところであり、県としましては、国の動向を踏まえながら、これまでの人材確保支援事業による補助とあわせて、引き続き、私立幼稚園における処遇改善への支援に取り組んでまいりたいと考えております。

平成27年度からの子ども・子育て支援新制度の施行や、令和元年10月からの幼児教育の無償化など、私立幼稚園を取り巻く環境は、近年、大きく変化しておりますが、県としましては、千葉県の未来を担う子どもたちのため、幼児教育の充実にしっかりと取り組み「小さな手に大きな未来を」の実現を目指してまいりますので、私立幼稚園の皆様におかれましては、引き続き、本県の幼児教育の振興に御尽力くださいますようお願い申し上げます。

結びに、千葉市幼稚園協会のますますの御発展と、皆様の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。あいさついたします。

## 就学に向けて～幼児教育の大切さ～

「幼稚園は子どもがはじめて出会う学校」と言われます。小・中学校の教諭として勤めた経験をもつ私にとって、これは大変奥の深い言葉でした。

年齢が上の子もたちの指導は大変と思われませんが、実はその段階になり改めて学びの基礎基本の大切さを実感するものです。中学3年生を受け持つと「15の春は飛翔」と身が引き締まります。中学1年生から受け持った学年であっても3年生は特別、同じ最高学年でも小学6年生とは全く違います。続く行き先はなく、一人ひとりが進路を決めて羽ばたくのですから…。

そして、その時に発揮するのが過去の学び、身についた力なのです。本来、人にとって学びは楽しいものです。学校では、その学びがどんどん積み重ねられ、総合的に発展するのです。知的好奇心をもって向かえるはずの授業が、既習の土台がないと退屈で苦痛の50分になる訳で、それが1日6時間、毎日となると考えるといかがでしょう。

中学校では小学校の教育が土台と言われます。さらに小学校は1年生が大切と言われます。学校という異年齢集団での生活の決まりごとや学習の仕方を身につける時だからです。

そして、その土台は幼児教育が担っているのです。日々の集団での遊びや学びの生活、行事をとおしてのさまざまな経験が子どもたちの確かな土台となり、積み重ねられて就学するのです。

\*\*\*

今は、幼保小の連携がしっかりと年間計画に位置づけられ、互いの施設や教諭が交流し手を取り合って子どもの成長を見守るようになりました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、交流活動が縮小されたり、単独見学やビデオレターになったり等はあるものの、園児がスムーズに楽しく小学校生活をスタートできるよ



う互いに知恵を出し合いさまざまな工夫をしています。

限られた時間であっても、それは子どもたちにとっては新しい環境への出会いとなる貴重な経験であり、私たちにとっては指導のPDCAサイクルとなるものです。

保護者から、私も文字や数字の読み書きや給食の不安をよく相談されますが、それは小学校に入って基本から学べますし、給食のアレルギー相談や対応、食べる量や時間なども入学当初は配慮されています。1年生には、知・徳・体のバランスを考慮した「スタートカリキュラム」があるのです。

また、さらに深い悩みがあるようであれば、千葉市こども未来局や保健福祉センターをはじめ専門的な関係機関と連携したり、つなげてあげたりすることは大きな親子支援であり、将来的に重要な一歩となります。

\*\*\*

就学に期待と不安を感じている子ども（保護者）と、小学校のことを楽しく話したり想像したり、一人ひとりに温かく寄り添いながら入学までの時間を大切に過ごすこと、これこそが幼稚園ができる教育であり、幼稚園だからできる豊かな保育の姿です。

思い返せば、私自身も幼稚園が大好きでした。そこには、夢中になれる遊びと学びがあり、常に先生と友達がいたからです。そこは、まさに「はじめての学校」だったのです。

各幼稚園やこども園は、独自の園目標や目指す園児像を掲げ「生きる力」の育成に情熱をもって取り組んでいます。特に、それぞれの園の計画的な保育実践、その多様性が人権や個性の尊重につながっていることを最近感じています。

まだまだコロナ禍は続きそうですが、そのなかでも私たちは縁あって出会った子どもの成長を願い、今だからこそのことを日々大切に一人ひとりを育てていきましょう。

いつの時代も教育が未来を創ります。

加曾利幼稚園 園長 中川 好美

# 令和3年度 園表彰・永年勤続者表彰式



## 園表彰・永年勤続者表彰式を終えて

令和3年11月24日(水)、新型コロナウイルスの感染者が減少しているというものの、まだまだ安心ができない状態でした。しかし、そのような状況でも、皆様方のご協力のもと、今年度も昨年度同様に「令和3年度 園表彰・永年勤続者表彰式」を千葉市民会館で行うことができました。開式から始まり、岸会長の挨拶「生きる力」「自己肯定感」「非認知能力の重要性」等、貴重なお話をたくさん頂戴いたしました。

また、千葉市長、神谷俊一様からのコロナ禍での行事等を行う際、さまざま工夫したことに対して、各園への敬意・感謝やコロナ感染第6波がきても、千葉市としてしっかりと対策をたてていくという市民に対する心強いお言葉も頂戴いたしました。

その後、永年勤続受賞者を代表してさつきが丘幼稚園の宮間先生から謝辞が述べられました。ご自分が幼稚園教諭になったきっかけと、30年間の勤務での苦難や楽しくお仕事されてきたお話が手に取るように伝わってきました。

体験発表は、若松台幼稚園の鹿島先生が「共に育ちあうこと」というテーマで話されました。初めて勤務された年のことから始まりました。ご自分が中学生と高校生の第二人と家事を分担しながら仕事開始

した時、帰宅と同時にそのまま車の中で寝てしまい、窓を叩かれて目が覚め驚いて起きると、窓から心配そうに「お姉ちゃん生きている?」と声を掛けられるくらいに疲れ果てていたそうです。その様子を想像すると本当に苦労しながらお仕事をされていたんだと思い、その頑張りに心打たれました。また、何年かお仕事をされた後、英語という壁にぶつかり勉強のために海外への留学。その結果が帰国後の幼稚園再就職先で活かされたという報告がありました。現在では母となり幼稚園の仕事と子育てをしていて、子どもたちの育ちを見守り、自分も子どもたちと共に人として、幼稚園教諭として、母として育てられたというお話でした。このお話はとても素晴らしい発表内容で、この日に参加された皆さんは傾聴し、大きな拍手が湧きました。

今回もコロナ禍のため、振興大会は開催されませんでしたでしたが、園表彰・永年勤続者表彰式は、永年の多くの経験を積み重ねられた皆様にとりましては良き晴れ舞台となったことと思います。

創立60周年2園、創立45周年5園、永年勤続された先生方、本当におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。

大塚 恵子 (認定こども園 土岐幼稚園)



式典の様子



永年勤続者代表謝辞



保育者の体験発表

大巖寺幼稚園

園長 長谷川 和世

大波、小波、波風を受けながらも、建学の理念に支えられ、ブレることなく還暦を迎えることができました。こどもたちの笑顔やいきいきとした姿に励まされ、歴代の役員・教職員はもとより、保護者をはじめ、多くの方々のお顔が浮かんでいきます。教育とは共に育つ「共育」だとの感を強くするこの頃です。感謝とともに今後一層の精進を期してまいります。

あやめ台第二幼稚園

理事長 神野 茂美

このほど、千葉市より創立45周年の表彰をいただきました。深く感謝申し上げます。振り返ると、いろいろなことが、頭に浮かびます。大変な日々もありましたが、なつかしい思い出です。現在、幼児を取り巻く状況は日々変化しています。これからも、初心を忘れずに、努力できればと思っています。皆さんのお力添えをよろしく願います。今回、千葉市のご来賓、協会長から、温かいご祝辞をいただきました。コロナ禍で大変なときに開催していただき本当にありがとうございました。

認定こども園 千葉敬愛短期大学附属幼稚園

小笠原 麻紀

人生の半分以上を過ごしてきた30年。今までかかわってきた職場の先生方、子どもたちや保護者の方々があつての今を迎えられることに大変感謝しております。長く勤めると卒園児が母となって園に戻ってくることも多くなり、感慨深いものがあります。今後も子どもたちがどんな大人になっていくのかを楽しみながら、小さな成長を育んでいくお手伝いができたらと思っています。ありがとうございました。

聖母マリア幼稚園

片岡 陽子

この度は永年勤続表彰式を開催していただき、ありがとうございました。未だ大人も子どももマスクが手離せないなか、行事の変更等が余儀なくされた年でしたが、この困難を乗り越え頑張っていた、という気持ちを改めて持つことができました。感謝いたします。これからも子どもたちに寄り添い、日々成長する姿を教職員として、保護者の方と共に喜び合いたいと思います。

青い鳥幼稚園

森 千尋

この度は、永年勤続表彰をしていただきありがとうございます。これまでたくさんの子供たち、保護者の方、先生方との出会いがあり、支えてくださった皆様に心より感謝しております。これからも子どもたちひとりひとりの気持ちに寄り添いながら、笑顔で向き合っていきたいと思っています。

みのり幼稚園

松田 純奈

この度は表彰いただき、ありがとうございました。気づけば10年の月日が経っていましたが、今回たくさんのお祝いの言葉をいただき、改めて周りの方々に支えられ、助けられてきた感謝の10年間なのだと感じました。毎日楽しく、思いっきり子どもたちと向き合い、保育という素晴らしい仕事に打ち込んで来られた全ての環境に、心から感謝いたします。この先も、これまでの恩返しをしていくつもりで、子どもたちの今と未来のために、全力を尽くしていきたいです。

令和3年度 創立60周年、45周年園表彰

創立60周年園表彰	認定こども園 松ヶ丘幼稚園 大巖寺幼稚園
創立45周年園表彰	認定こども園 高浜幼稚園 やまびこ幼稚園 あやめ台第二幼稚園 若松台幼稚園 山百合幼稚園

令和3年度 永年勤続者表彰

40年	尾崎 正徳 日暮 さつき	九重幼稚園 千葉女子専門学校附属聖こども園	10年	田嶋 知世 松田 純奈 新井 さゆり	園生幼稚園 みのり幼稚園 (認)千葉明徳短期大学附属幼稚園
30年	平賀 桂子 小笠原 麻紀	翠幼稚園 (認)千葉敬愛短期大学附属幼稚園		鶴田 泉 田中 由美子	(認)葵幼稚園 (認)土岐幼稚園
20年	宮間 美由紀 石田 紋子	(認)さつきが丘幼稚園 翠幼稚園		岡田 真理 石川 千鶴	(認)土岐幼稚園 子鹿幼稚園
	中村 あすか 太田 めぐみ	千葉文化幼稚園 (認)松ヶ丘幼稚園		川野 菜穂 江尻 一貴	暁幼稚園 こざくら第二幼稚園
	片岡 陽子 竹内 杏子	聖母マリア幼稚園 こざくら幼稚園		高宮 彩香 工藤 香奈	こざくら第二幼稚園 あやめ台第二幼稚園
10年	田浦 由貴 竹内 久美	(認)みつわ台幼稚園 (認)ひまわり幼稚園		鹿島 奈美枝 加藤 茜	若松台幼稚園 山百合幼稚園
	高橋 あゆみ 森 千尋	(認)ひまわり幼稚園 青い鳥幼稚園		二上 秀之 小玉 愛	山百合幼稚園 小中台幼稚園
	梅村 季子 釧谷 卓也	(認)はまの幼稚園 (認)松ヶ丘幼稚園		佐藤 百合子 城山 純	都賀の台幼稚園 めぐみ幼稚園
	加藤 将弥 工藤 瑞希	稲毛幼稚園 九重幼稚園			

# 千葉県幼稚園協会研修会

千葉県幼稚園協会では教育・保育力向上を目的として、毎年さまざまな研修会を企画し、教職員が参加しています。今年度開催された研修会の報告をいたします。

## 研究部会

### 子どもの遊びと環境 ～砂場を通して～

講師 箕輪 潤子 (武蔵野大学准教授)

今年度は「子どもの遊びと環境～砂場を通して～」というテーマで、武蔵野大学准教授の箕輪潤子先生にご指導いただきながら、自園の砂場遊びについて考え、子ども理解を深めてきました。

コロナウイルス感染予防のため、1月12日はZoomで行いました。

砂場での子どもの成長や、自園の悩み、それに対する解決に繋がる工夫についてグループ討議もあり、貴重な情報交換の場となりました。

3回の研修を通して、砂場の広さ・深さ・枠の幅・砂の質・道具・水の使い方・保育者・仲間などの環境の要素や、園・地域の文化によってそれぞれ違う遊び方があること、援助の工夫により子どもたちの遊びの幅が広がることを学びました。これらを「次の日からの保育に活かしたい」と意欲に繋がる充実した時間となりました。

小谷 智恵子 (めぐみ幼稚園)



園児の目線で遊んでみました



事例を持ち寄って話し合いました

## 事例研究会

### 試行錯誤だった令和3年度の事例研究会

今年度の事例研究会、10月と1月の2回については残念ながらZoomでの事例研となりました。事例研は、子どもの事例をもとに、小グループに分かれ、限られた時間ではありますが、参加者が直接意見交換しながら支援の方法を探していきます。協議中心の事例研をZoomでできるのだろうか？ブレイクアウトルームというツールをうまくつかえるだろうか？オンラインで行う研修は2年目も緊張の連続でした。

10月は、事前に研究委員協力のもと、ブレイクアウトルームのリハーサルを行い臨みました。事例研究会担当の鈴木から「子どもどうしが互いを尊重し合える『関係』>というテーマで話題提供をし、初のブレイクアウトルームを皆で体験しました。対面で会うことができなくなった先生方が、本当に久しぶりに画面越しですが会って感想を述べ合ったり、意見交換をしたり。初体験はドキドキでしたが、参加者の先生方の嬉しそうな顔が印象に残りました。

1月には、いつもの事例研をZoomで行うことに挑戦しました。事例検討には情報が必要ですが、Zoomでは得られる情報が少なく、ブレイクアウトルーム

アドバイザー

加瀬 幹生 (千葉県療育センター 療育相談所長)

田宮 真理子 (千葉県発達障害者支援センター 巡回相談員)

山田 尚子 (千葉県保健福祉局健康支援課 主査) 他 各区の保健師

での十分な協議が難しいと感じましたが、アドバイザーの加瀬先生(療育相談所)からは、情報が多すぎて見えなくなることもある。むしろ少ない情報から想像するということが、事例検討をする時には大事、というアドバイスもいただき大きな気付きとなりました。

鈴木 由歌 (愛隣幼稚園)



## 特別支援教育研修会

### どの子どもにとっても大切なことを学ぶ

講師 相磯 友子 (植草学園短期大学子ども未来学科准教授)

今年度最後の特別支援教育研修会は、当初対面での研修会を予定していましたが、コロナウイルスの感染が急増したこともあり、2月2日(水)にオンライン形式(Zoom)での実施となりました。

当日は、植草学園短期大学子ども未来学科准教授 相磯友子先生に「外国にルーツのある子どもたちへの支援を考える」というテーマでご講演いただきました。

外国にルーツのある子の全体の3~4割くらいの子が場面によって何らかの支援が必要であるということです。また、外国にルーツのある子どもの理解の

ため 1.複数の文化・言語のなかで生活をしている 2.母語の習得中に日本語を学ぶということ 3.日本語の遅れ?発達の遅れ?を見るポイント 4.外国出身保護者は手探りで子育てをしている 5.園の環境を見直す・整備する、という5つのことについて詳しく学ぶことができました。

どの子どもにとっても大切なことは、安心のなか(場所・人)で言葉の習得が進むこと、保護者とのコミュニケーションや丁寧なかかわり方が子どもたちにとって大きく影響するということを改めて学ぶ良い機会となりました。

鈴木 朱美 (植草学園大学附属弁天こども園)

# 全体会

## 第2回全体会を終えて

講師 平田 智久 (十文字学園女子大学名誉教授)

令和3年11月17日、千葉市文化センターアートホールにて、160名の先生方が参加して全体会が開催されました。新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向にあったため、感染防止対策を施しながら、実に1年ぶりに対面での全体会が開催できました。当日は、十文字学園女子大学名誉教授の平田智久先生を講師にお迎えして「感じて、考えて、行動する子どもたちを育む保育をめざして」というテーマでご講演いただきました。「主体的・対話的で深い学び」について、今一度、それぞれの本質や子どもの育ちについて教えていただくことで、日頃の保育のあり方を考え深めることができました。

また「感じて、考えて、行動する」時に伴う、脳の前頭葉の働きが、子どもたちの表現を豊かにしていく上で、とても重要な役割を担っていることもわかりました。これは、ワクワクしながら環境に関わっている子どもたちの姿を、保育者がどう捉えていくかを考える大事な視点になりました。

「子どもたちと先生が対話しながら、お互いのやりとりを楽しみ、共鳴し合うと

保育は面白いね」という平田先生の言葉が会場の先生たちへのエールに聞こえ、とても心に残った全体会でした。

山崎 佳世 (由田学園千葉幼稚園)



講師の平田智久先生の講話



岸会長の挨拶

# 年少分科会

## 小さな劇場を保育者の手で 手袋人形・手遊び・お話・絵話のできる人に!

講師 大竹 麗子 (おはなしかご)

9月に予定していた研修会でしたが、夏に発令された4度目の緊急事態宣言を受けて、1月18日に延期しての開催となりました。当日は感染症対策を十分に行之「おはなしかご」の大竹麗子先生を講師にお招きして「小さな劇場を保育者の手で 手袋人形・手遊び・お話・絵話のできる人に!」をテーマに講演していただきました。

子どもをお話に惹きこめるかどうか、それは話す側のアクション次第とのこと、具体的な例を挙げながら話法のテクニックを教えてくださいました。間の取り方や声の調子、話す速度など気を付けるポイントがとてもよくわかりました。

先生は、手遊びやお手玉遊び、絵本読み、素話、パネルシアターなどたくさんの実演をしてください、参加者は心地よいお話の世界に惹きこまれていくのを体感することができました。そのなかで、絵本読みの際、保育者は子どもたちの方ではなく、自身も絵を見て、その世界の登場人物の一員になりきることが大切ということを知りました。視覚から入る情報は制御できないため、絵本によって子

どもたちもった世界観を保育者が邪魔しないようにするためとのことでした。今年度、数少ない対面での研修会でしたが、会場内が先生の作り出す素敵なお話の世界となり、そのなかで学べたことは大変有意義でした。

竹内 久美 (ひまわり幼稚園)



手遊び「♪野原にお花が咲きました」



「おはなしかご」大竹麗子先生

# 年中分科会

## わらべうたと絵本を楽しむために ~実践から学ぶ~

講師 山田 吟子 (元千葉市図書館員、いちごの会主宰)

実践から学ぶのが一番!という内容の研修でしたが、やむを得ずオンラインになってしまったので、画面をとおしてでもわらべうたの楽しさが伝わるようにと、サポート役に3人の先生をお願いして実践する姿を見ていただきながら行いました。

わらべうたは、一対一のふれあい遊びが多い印象でしたが、アレンジできることを知り、ことば遊びを楽しんだり、くすぐり合ってみんなで笑ったりして、気持ちを開放する機会としても、大いに保育に取り入れたいと思いました。そして『ことばの土台作り』となる絵本は、絵・ことば・ページの間など、しっかりと吟味されているもの、つまり長く読み継がれている絵本を、幼稚園という教育現場だからこそ、子どもたちに読んでいきたいと改めて感じました。

山田吟子先生の穏やかで温かい語り口調に心地よさを感じながらも、研修

の途中で音声が届かなくなりご迷惑をお掛けしてしまいましたので、またの機会にはぜひ対面で、研修を受けていただけると良いのではないかと思います。

岡崎 桂子 (穴川花園幼稚園)



♪ひとつつばしでやいたもち♪

# 年長分科会

## 現代の子育て事情と子育て支援2021

講師 花澤 佳子 (臨床心理士・公認心理士)

現代の子育て事情のなかで保護者にどのような支援が必要か、保護者の方々がどのようなことで不安や戸惑いを示されているのか…花澤先生のお話のなかで学ばせていただきました。

現代の保護者の不可解さ・社会的背景・育児や発達を困難にする要素等を具体的にさまざまな観点から実情を話していただき、保護者の方の複雑な思いを感じることができました。

本来の、望ましい育児について

子どもが育つ4原則

- ・温かいぬくもり
- ・温かいまなざし
- ・共食
- ・身体の心配をしてもらえること

それぞれの家庭環境によって子どもたちの心と体の成長は大きく異なります。子どものSOSは身体症状化、行動化で理解ができ読み取れるので、いかに早く察知することができるかが重要であり、現代の育児支援は答えを出さずに複数の選択肢を提供し、あとは自分で考えさせることが大切。

保護者が寝て、食べて、笑って、人を頼って、養生する、仕事以外の楽しい・落ち着く・安心する・人と繋がるような世界を大事にする、体を動かす、1人の時間を作る、リラクゼーションをする…

私たち保育者も子どもたちと笑顔で接するために、花澤先生の話を中心に受け止め日々の保育に臨みたいと思いました。

関原 喜恵 (山王幼稚園)

# 理事長・園長研修会報告

千葉市幼稚園協会 総務委員長 川上 浩

毎年行っている理事長・園長研修会は令和4年1月21日15時からオンラインで実施しました。近年、未就学児施設に不審者が侵入する事件が多発しております。各園では常時防犯訓練を行っておりますが、今年度は「幼稚園・こども園における不審者対応」について防犯のプロである総合警備保障の高瀬氏を講師に迎え、最近起きた事件を例に具体的対応策を教えてくださいました。まず不審者の侵入を未然に防ぐ基本は出入り口の施錠、防犯カメラでの監視、園周りの見回りが重要とのこと。あたりまえのことではありますが、防犯カメラが古くないか？施錠はきちんとされているか？外の見回り等再確認が必要であると思いました。侵入を許してしまった場合、全職員への伝達、園児の安全確保、警察等への連絡、これらは役割分担しスムーズに行えるよう毎回の訓練で条件反射的に動けるようにしなければと感じました。また、園児がパニックにならないような言葉がけ、臨機応変な対応、冷静な判断などは、いろいろなケースを想定して職員にも「とっさの判断」を考えさせる訓練の必要性を感じました。

また、女性の多い職場なので、絶対に侵入者と戦ってはいけないという講師のアドバイスから緊急手段として、男性職員がいる園は男性がある程度時間稼ぎ的な対応で「さすまた」や「木刀」等で園児が逃げる時間を確保する実践練習も必要ではないでしょうか。大切な子どもたちを預かる園としては、どんな訓練も万が一の場合に備えてですが、なれ合いにならない緊張感を持った訓練を行うことが大切であると思います。

千葉市内の幼稚園・こども園にはボタンを押すだけで警察に通報できる通報装置があり、専門の点検業者が年に数回点検しています。また、防犯・防災訓練（火災、地震、津波、竜巻他）を定期的に行い、教職員一人ひとりの意識を高めています。さらに、千葉市幼稚園協会や関係機関の協力のもと行われる講習会に参加し、日常生活における事故防止や手当ての基本、心肺蘇生法、AEDの使い方、搬送法及び災害時の心得などについての知識と技術を習得していますので安心してお子様を預けていただければと思います。

## 防犯に関する心得について

**未就学児施設の不審者対策の必要性**

- 令和2年の未就学児が被害者となった事件数：**648件**  
（警視庁「令和2年の刑法犯に関する統計資料」より）

**暴行・傷害の犯罪件数が増加傾向**  
※5年前と比較して約2倍増

総合警備保障株式会社 千葉支社 幕張営業所 高瀬 敏行

**児童に行う不審者対応策教育**

- 「いかのおすし」

日頃から「いかのおすし」を確認・徹底させること。  
危険を感じたらすぐに行動できるよう、ロールプレイングを行いましょう。

「いか」知らない人について行かない  
「の」知らない人の車には乗らない  
「お」大声を出して助けを呼ぶ  
「す」安全なところまですぐ逃げる  
「し」すぐに家の人に知らせる



## 日頃から行う不審者対応策

**防犯設備の強化**

- 防犯計器等の警備設備の設置（定期点検＆更新）
- 機械警備の導入 
- 非常通報装置の設置 

**防犯意識の向上（一例）**

- 園内の施設確認の徹底
- 各幼稚園教諭・スタッフの役割分担決め
- 施設周辺の見回りの強化 
- 日頃からの情報収集

**防犯意識の向上**

- 防犯研修・講習会の実施
- 連絡ツールの配備 

## 協会加盟園管理職向けに実施した「コロナ禍のアンケート調査」の結果から

令和2年4月の緊急事態宣言からちょうど3年目に入ります。当時は「3密を避ける」ことが推奨され、入園式の実施方法や時期などの変更を余儀なくされました。

会合等もオンラインになるなか、各園同士の情報交換がスムーズにできないことから情報共有を目的としたアンケート調査を、令和2年4月から今までに数回実施しました。URLからアンケート回答後、その時点の集計結果をリアルタイムで見ることができる便利なグーグルフォームを使用しました。コロナ1年目は3密を避けての行事の実施方法、動画配信、各園独自のコロナ対策、対策グッズのおすすめ品、登園方法等、主に3密を避けるための運営方法の情報共有といった内容のアンケートでした。2年目突入のころには「ウイルスの怖さ」などがある程度わかり、各園の対策方法が確立されましたが、昨年はデルタ株が新たな脅威となり、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の適用のたびに各園の登園方法や行事の変更を調査。加えて教職員のワクチン接種率、園児・園児家族・教職員

の感染者数等を情報共有。振り返るとデルタ株まん延の頃は幼稚園の徹底した感染対策、保護者の健康管理の徹底などで園児の感染者は非常に少ないアンケート結果でした。しかし今年の1月下旬実施のオミクロン株まん延時のアンケート結果は、1月だけで園児・家族・教職員の感染者数がデルタ株まん延時の半年間より多く、負担や心配事の記入欄はぎっしりで現場の切実さを感じる結果でした。各園は園長の判断のもと、園内でできる対策はすべて行っておりますが幼児教育は園児が密になって遊ぶことや、お友達・先生と会話して社会性、コミュニケーション力を養うことが中心で、この部分においては感染対策と相反していますが教育上重要な活動ですので保護者の皆様にもご理解・ご協力いただければと思います。

幼児教育の継続ができるよう日々努力している教職員に感謝と敬意を表したいと思います。近い将来、特効薬や経口薬が普及して、コロナが終息する日が来ることを願っています。

2022

# ようちえん こどもえんフェア

## 令和4年 7月30日(土) 開催決定!!

千葉市幼稚園協会として保護者の皆様や地域の方々に、現在の幼稚園・認定こども園の特徴や取組について紹介をします。幼児教育への関心を高めていただき、入園する園を検討していただけるようにフェアを開催しております。昨年度、第3回はオンラインで開催を致しました。2022年はコロナウイルスの感染予防対策をしながら対面で行う方向で計画をしております。ぜひ遊びにいらしてください。

※今後の感染状況によってはオンライン開催に変更する場合があります。

### フェア内容



千葉市内の幼稚園・こども園の紹介  
親子であそぼうコーナー 子育て相談





# お弁当・給食だいすき



大人も子どももたのしみな“おひるごはん”

今回は、幕張インターナショナルスクール幼稚園の、お料理上手な園長先生のイタリアンのお弁当と、認定こども園キッズビレッジのアレルギー原因食物に考慮した「みんな同じ給食」をご紹介します。

## お弁当だいすき

私は幕張インターナショナルスクール幼稚園の園長です。私のお弁当は、日本のみなさんのお弁当とはかなり違っているかもしれません。私はアメリカのカリフォルニアで育ったイタリア系アメリカ人です。私の父は、いつもおいしい食事を家で料理していました。多くはイタリア料理です。私も父のように、家庭で我が子においしい食事を食べさせようと思っています。従って私のお弁当は、前日の夕食の残り物であることが多いです。今日のランチを例にとって見てみましょう。これは、チーズを詰めた小さな枕のようなパスタ、ラビオレッティと呼ばれるパスタです。ラビオレッティの上には、昨日一日かけて煮込んだ自家製ミートソースがかかっています。そして、新鮮なすりおろしたパルメザンチーズをトッピングしています。そのとなりに、チーズ風味の自家製ガーリックブレッドを使った、おいしくてヘルシーなサラダを作りました。いかがですか？私の昼食を召し上がってみませんか？



園長 トレント シトラノ  
(幕張インターナショナルスクール幼稚園)

### メニュー

- ・ミートソースのパスタ
- ・サラダ
- ・ガーリックブレッド

## 給食だいすき

### 「みんな同じ給食」

栄養士 小穴 美智子  
(認定こども園 キッズビレッジ)

キッズビレッジは幼保連携型のこども園で、半数以上の子どもたちが日中の多くの時間を園で過ごします。給食は子どもたちが初めて集団生活のなかで食べるという経験する場なので、子どもたちに提供される食事はただ空腹を満たすだけでなく、お友達や保育者と一緒に楽しく給食を食べる体験を通して、食に興味関心を持ち、食に対する理解を深めていく役割を担っていると考えています。



近年では食物アレルギーの子どもが増加し、個別対応の除去食を必要とする子どもも増えてきています。キッズビレッジでは「みんな同じ給食」を食べられるように、在園児のアレルギー原因食物をできる限り使わない給食を提供しています。つなぎの卵は使わない、ハンバーグのパン粉は高野豆腐で代用、クリームシチューは豆乳シチューにするなど、代用の食品を使ってもおいしく食べられるように工夫しています。

以前アレルギー除去食がある日は、調理の現場では間違えないように手順を確認し、緊張しながら調理をしていました。保育者はアレルギー児が食べ終わるまで目を離せず、通常食の子どもたちにも注意を払わなければならないので、給食の時間を楽しむ余裕はありませんでした。「みんな同じ給食」にすれば、誤食事故のリスクも減り安心して給食を楽しむことができます。写真は卵も牛乳もパン粉も使わないハンバーグの日の献立です。これからも安心安全を第一に子どもたちと職員が笑顔になれるような給食を作っていきたいと思います。

### メニュー

- ・ごはん
- ・ハンバーグ
- ・コールスローサラダ  
(卵不使用のマヨネーズ風ドレッシング使用)
- ・みそ汁
- ・りんご

# 保育室の窓から



## 秋の楽しい自然物遊び

高橋 亜美 (小中台幼稚園)

小中台幼稚園は大通りに面した立地で、自然豊かとは言えませんが限りある自然のなかで遊びを楽しんでいます。園庭にはけやき・いちよう・紅葉・柿の木があり、秋になると落ち葉を使った自然物遊びが始まります。落ち葉を束ねて花束のようにする子、大きな落ち葉を泥団子のお皿にする子、葉を二つ折りにして枝に刺して焼き鳥を作る子…。それぞれが何かに見立てて遊びが広がっていきます。子ども



たちが拾ってきたどんぐりやまつぼっくりを使って、リースや飾り作りも楽しみました。秋が深まってくると落ち葉を山のように集めて滑り台の下に敷いて滑り降りたり、落ち葉の散歩道を作ったり、大きくなげた段ボールの囲いの中につめこんでお風呂を作ったり…。保育者を真似て小さな熊手やほうきを持って一緒に落ち葉を集めるだけでも遊びになります。子どもたちの笑い声と共に「カサカサ」「ガッシャガッシャ」と落ち葉の良い音が今年も園庭に響いていました。

### 私の好きな絵本

「もっとおおきな たいほうを」

作：二見正直

出版社：福音館書店

どちらの大砲がよきかい川の向こうのキツネと競い合います。大きすぎでなく数や派手さ、形の面白さや軽さを試行錯誤する王様たち。最後は争うのをやめて大砲を半分に分り、皆でお風呂にしてしまいう発想豊かな絵本です。

## 子どもたちと創る組体操

早川 歩 (千葉女子専門学校附属聖こども園)

毎年、年長組は運動会で行う組体操のなかで身体の表現発表をします。まずは、子どもたちとどんな組体操にしたいのかを話し合いました。「かっこいい組体操」「年長さんにしかできない組体操」などたくさんの意見が挙がり、みんなの気持ちを確認しながら、いよいよ技づくりへと移ります。子どもたちが知っている形(さんかく、しかく、まる)に興味や関心の持てる活動を取り入れ、初めは一人で作る形あそびにチャレンジし、そこから三人、六人と人数が増えるなかで難易度も上がります。子どもたちのやってみようという気持ちを直接体験するなかで共有し、完成へと導きます。また、技の名前も



子どもたちの発想から命名され、すべて子どもたちの考えた子どもたちの組体操が完成しました。大人の考えたものを表現することは簡単ですが、年長組らしく意見や考えを出し合い、みんなで一緒に創り上げる組体操の活動は、子どもたちにとって良い経験になったのではないのでしょうか?最後に、これからも子どもたちにとって自由な発想が表現できる環境を作ることを忘れずに、子どもたちと一緒に過ごしていきたいと思います。

### 私の好きな絵本

「カラーモンスター  
きもちはなにいろ?」

作：アナ・レナス

出版社：永岡書店

カラーモンスターは、自分でもなにがなんだかわかりません。いろいろな気持ちがごちゃごちゃしています。うれしい、かなしい、いかり、ふあん、おだやか、の5つの気持ちを整理することで自分の感情を大切に、気持ちの整理や表現することを手助けしてくれる絵本です。

## 草木染めに挑戦

大健 綾香 (聖母マリア幼稚園)

子どもたちは色水遊びが大好きです!絵の具の色水を混ぜ合わせてジュース屋さんをしたり、草花をすり潰して色水を作ったり。絵の具と和紙で染め紙を楽しむこともありますが、何か新しい活動はないかと、年中長児で草木染めに挑戦しました!今回は玉ねぎの皮と紅茶の茶葉を使い染料液を抽出。子どもたちは輪ゴムとビー玉、割り箸を使ってさらし布を絞り、自分で選んだ染料液に投入。玉ねぎの皮から黄色の染料液ができることに驚いたり、絞りをはずすとひとりひとり違った模様が出てきたり。世界に一つだけの作品になりました!年中児はそのままハンカチに、年長児は針と糸で仕立ててランチョンマットにし、普段の生活のなかで使っています。



絞りを作る工程では、指先をたくさん使って輪ゴムを布にかけていきます。最初はうまくいかなくても、何度も繰り返すなかで一人できるようになりました!また、年長児が取り組んだランチョンマット作りは、年中児も興味津々。モンテッソーリでの縫いさしの活動も盛んになりました!“染める”を楽しんだ草木染めでしたが、指先を使ったさまざまな活動にもつながった体験となりました!

### 私の好きな絵本

「ぼくはアフリカにすむ  
キリンといひます」

作：岩佐めぐみ

出版社：偕成社

アフリカに住むキリンくんは何もすることがなくて退屈。同じく退屈していたペリカンくんがはじめて郵便配達で、手紙を届けてもらうことにします。宛先は「地平線のおこうに住むきみへ」。見たこともない誰かとの文通が始まり、物語が続いていきます。児童書なのですが、章が分かれていてるので読みやすいです!3学期の年長児と楽しんでいます。

### 幼稚園・認定こども園等で働きたい方をサポートします!!

厚生労働大臣許可番号：12-コ-300646

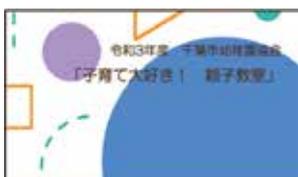
- 幼稚園教諭、保育士の資格をお持ちの方や資格取得見込みの方
- 子育て支援員として認定された方
- 上記以外の職種（栄養士、事務員、バスの運転手等）の方
- 子育てを終えて職場復帰を希望されている方

幼稚園・認定こども園で働きたい方や再就職を考えている方は、ぜひ、千葉市幼稚園協会HPの求職登録フォームよりご登録ください。資格をお持ちでない方もご相談ください。

千葉市幼稚園協会

検索

協会ホームページもご覧ください  
親子教室動画、2021幼稚園・こども園フェアオンライン公開中です



公式Twitterフォローお願いします  
(@youchien\_chiba)



### 子育て電話相談室

毎週水曜日 AM10:00~PM4:00  
(夏休み、冬休み、春休みを除く)

0120-510-439

### 編集後記

今年度も残りわずかとなりました。各園では、感染症対策をどのように講じていくか普段の保育活動から行事までいろいろと悩みは尽きなかったことでしょう。

来年度はどのような年度になるか誰にも分かりません。そのようななかでも我々保育者が今できることを考え、行動することにより園児や保護者の方に最大限の保育、環境、安全を提供することが大事ではないでしょうか。

この先の幼稚園を取り巻く環境や制度など、さまざまな変化、変革が起こることも予想されます。そのために、幼稚

園協会主催の研修会や各活動にご理解ご協力を賜り、各園の先生方におかれましては、情報交換や交流を通してより良い保育活動が展開できるように頑張りましょう。

最後に会報の執筆にご協力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。来年度も広報委員会では会報からたくさんの情報発信をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

石井 靖人 (花水木幼稚園 副園長)